

神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

106
2019.12

Vol.23 No.3 通巻106号 2019年12月15日発行(年4回発行)



友の会では、年4回発行の「友の会通信」に加え、地球博物館友の会ブログ、友の会ツイッター、博物館ホームページなどで、友の会活動の情報を発信しています。特にブログでは、友の会通信では載せきれない情報や旬な情報をご紹介しますので、ぜひ御覧ください。

ブログのQRコード⇒



目次

グループ別報告	2
— 事務局より	
— 会員募集	
— 情報クリップ	
— 各グループからの活動報告	
行事案内	7

事務局より

2019年度友の会第3回役員会の開催

2019年9月14日（土曜日）午後より、発送作業及び第3回友の会役員会を開催しました。

役員会では、会員及び会計状況報告、広報部からは次回12月発行の友の会通信106号の構成等について、企画部では今年度下半期の講座の確認と来年度の講座企画募集、11月の講座担当者会議、8月に実施したハルネでのよろずスタジオでの実施報告等について話し合いました。

ハルネでのよろずスタジオは、来年度も実施予定ですので、ご期待ください。

会員募集

メンバー募集中で～す！

植物好きの皆さん、私たちと一緒に活動してみませんか？

興味ある方、もっと活動内容を知りたい方、下記にお電話を。またはお知り合いのメンバーに声がけを。

1月7日に会議をします。ちょっと覗いて見ませんか。

初めの1歩をお待ちしています

友の会植物グループ

浜岡史子

主な活動：観察会・研究会&勉強会・会議



観察会、どこにする？

バスで〇〇に行くのはどうでしょう？

危ないところはないかしら？

研修会、楽しみー！

情報クリップ

友の会会員数：441名（10月31日現在）
 正会員：440名／賛助会員：1名

「2019年度子ども自然科学作品展」のご案内
 開催期間：12月21日（土）～
 2020年1月13日（月・祝）
 観覧料：無料（常設展は有料）

地域の小・中学生が行った身近な動植物の観察や自由研究などの自然科学に関する研究作品を展示します。作品には当館学芸員のコメントが付き、みなさんの研究の参考にもなります。たくさんの力作を、ご家族やご友人をさそって見に来ませんか。

企画展「 Gondwana～岩石が語る大陸の衝突と分裂～」のご案内
 開催期間：2020年2月29日（土）～
 5月10日（日）
 観覧料：無料（常設展は有料）

大陸は、集まっては分裂して現在の姿となったことがわかってきています。今回は、およそ6億年前に南半球に存在した、現在のアフリカ、南アメリカ、インド、オーストラリア、南極が一つに結合した「Gondwana大陸」に焦点をあて、巨大な大陸はどのようにして生まれ、分裂したのか。その謎解きを岩石や鉱物、化石を通して行います。また、日本ではなじみの薄いGondwana大陸で誕生した生き物たちも紹介します。

ミュージズ・フェスタ 2020
 開催期間：2020年3月14日（土）・15日（日）
 ※フェスタの2日間は入場無料!!

ミュージズ・フェスタは博物館の開館記念日を祝うお祭りで、この2日間は常設展示室も無料でご覧いただけます。友の会も出展するなど、子どもも大人も楽しめるイベントです。どうぞ皆さま、お気軽にお越しください。

問合せ先：神奈川県立 生命の星・地球博物館
 企画普及課 TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

活動報告（里山むしてくクラブ）

◆大人の昆虫講座「チョウはベストドレッサー」
2019年8月20日（火）／博物館・実習実験室／
22名／講師：渡辺恭平学芸員／担当：里山むしてく
クラブ

チョウは私にとって、いつもウォーキングを楽しくしてくれる昆虫です。里山を歩いていると春から秋にかけて必ず何頭かは出会います。モンシロチョウ、モンキチョウ、アゲハ、小さなシジミ、かわいい!!チョウの名前が知りたくなります。博物館で標本を見たり図鑑で調べたりしますがなかなかひとりでは判断できません。昆虫講座は子ども中心のものが目につきます。そんな時にこの講座を見つけました。大人の昆虫講座だから座学かな?と思っていたのですが返信はがきに外を歩きますとあり、ラッキー!です。本物にも出会える!まず博物館近くでチョウの観察。天気は曇り、渡辺学芸員とチョウのいそうなところを教わりながら歩くこと数分。「いました!」ツバメシジミ、カラスアゲハ、アゲハ、渡辺学芸員は素早く網で捕獲して見せて下さいました。



渡辺学芸員の展翅実演を見つめる受講者

その中にミヤマカラスアゲハがいたので博物館に持ち帰り標本の材料に。実際に展翅をして見せて頂きました。野外観察後は博物館の標本を見ながらチョウの種類、見分け方、神奈川に見られるチョウ、レアなものなど標本を前にすると違いが歴然です。それでも判断に苦しむものがあるとのこと、今度は図鑑で調べる。図鑑の選び方、読み方を教わりました。チョウの写真を持参された方の写真を見ながら同定に挑戦。とても内容の濃い講座でした。



写真による同定

最後にチョウの美しい鱗粉を見て終了となりました。チョウに会うのがますます楽しみです。

(友の会 赤木恵)

◆昆虫観察会 「そこにいたか・里山で楽しむムシ・むし・虫」

2019年9月11日（水）／足柄上郡中井町／
講師：渡辺恭平学芸員／17名

友の会に入って初めての昆虫観察会。観察地の比奈窪は河川敷・畑・林縁の土手・雑木林・丘の上の草地など多様な環境がそろっている場所でした。それぞれの環境でさまざまな昆虫に出会い、種によってうまく棲み分けている事を実感しました。印象に残っているのは河川敷のオニグルミの葉に居たトサカフトメイガの幼虫、林縁の土手のヤマトアシナガバチやミカドトックリバチ、雑木林のササキリモドキ、丘の上の草地のショウリョウバッタモドキなどです。また、外来種ムネアカハラビロカマキリに4頭も遭遇し（学芸員がその場で駆除済）その繁殖力を脅威に感じました。



ムネアカハラビロカマキリを見る



ウラナミシジミ

講師の渡辺学芸員は普通種といわれる昆虫でも一つ一つ丁寧に解説して下さり、その博識と昆虫愛に圧倒されました。ウラナミシジミのコバルトブルーの鱗粉、コムスジの緑色の体毛、ツチイナゴの腹にはえた細かい毛。自分の観察がいかにか手抜きだったか気づかされます。網で採ったハチのオスを手に持たせてくれたり、カタバミに産み付けたばかりのヤマトシジミの卵を見せてくれたり朽木に残ったヤマトタマムシの脱出孔を教えてくださいました。昆虫観察とはただ単に虫を見るだけではなく、虫に直接触れたり生活史を思い浮かべて痕跡を探し出したりするのが基本なのだと思えました。

渡辺学芸員、里山むしてくクラブの皆様ありがとうございました。そして狩りや繁殖で忙しい中私達に付き合ってくれた比奈窪の虫さん達、お邪魔しました。(友の会 萩原陽子)



質疑応答の様様

○ 温泉水を調べることはヒトの血液検査に似ているという喩えがわかり易く、「温泉水の水を調べて何がわかるのか？」という疑問について、1つの明確な答えをご提示いただいた気がします。

噴火警戒レベルの基準は、地震の回数と山体の膨張で判断されますが、同位体比やイオン濃度でもマグマの活性化がわかることは、レベルを判断する上で大いに参考になるのではないかと思います。

多様な泉質の箱根の温泉も、同位体に注目してトレースすることができれば、「どこから湧き出し、どのように混じり合っているのか」という、温泉水の流露のシミュレーションも可能になるのでは」と、非常に興味深く感じました。(谷 圭司)

○ 本年度から友の会に入会させて頂きました。地話懇話会も初参加です。今回は温地研の板寺さんが、箱根大涌谷で採取した熱水の継続的な分析を通して、内部で何が起きているかを探るご自身の研究内容を話題にされました。化学の専門用語は充分理解できないまでも、人体内の状況を調べる健康診断の血液検査のようなものだ、という喩えはよく理解できました。研究現場の話題を直接聞くことのできる機会は貴重です。

友の会を通じて博物館との関りが深まることで、趣味の柱となっている山歩きや関っているジオパークボランティア等での活動視野が広がればと思います。よろしくお祈りします。(小川 潤)

活動報告 (地学グループ)

◆地学G 地話懇話会

『化学成分から大涌谷の地下環境を探る』

2019年8月28日(水) / 博物館西講義室 / 板寺一洋氏(神奈川県温泉地学研究所 研究課長) / 参加者: 20名



水の同位体について説明される板寺講師

活動報告（サロン・ド・小田原）

第135回サロン・ド・小田原『アオバトと照ヶ崎周辺の地形』

2019年8月3日（土）／博物館西側講義室／68名／
話題提供者：加藤ゆき氏・田口公則氏・石浜佐栄子氏（当館学芸員）

2019年7月20日（土曜）～11月10日（日曜）開催の特別展「アオバトのふしぎ～森のハト、海に行く～」に合わせて、今回のサロン・ド・小田原は設定されている。参加者数の予想がつかみにくかったが、アオバトの調査を続けてきた「こまたん」の方たちも含め多くの人々・68名もの参加があった。

特別展の展示もアオバトのみに留まらず、大磯の地形、地質にも触れられていて、今回のサロン・ド・小田原は珍しく、学芸員3名（加藤さん、石浜さん、田口さん）からのお話を聴かせて頂いた。

まず、セッション1では「大磯の概要」（田口さん）と「アオバトとは？」（加藤さん）の話題にて、大磯のアオバトについて基本的な背景を知ることができた。そして、つづくセッション2では「照ヶ崎の地質、地形」（石浜さん）と「アオバトにとっての照ヶ崎の立地」（田口さん）の2題がつづき、地形的・地質的に見た照ヶ崎の成り立ちを理解することができた。この2つのセッションによって、「アオバト」×「地形・地質」というコラボレーションを堪能できた。



特別展会場での解説

特別展のタイトルは「アオバトのふしぎ」である。一番のふしぎは、春から秋にかけて毎日のように丹沢山地より大磯の海岸までなぜ海水を飲みに来るのか、である。アオバトの季節による食べ物の種類とナトリウムやカルシウム補給との関係など、い

ろいろと推察されているようだが、まだ、不明のところもあるようだ。

専門的な事はよく分からない私は、次のような事に関心をもった。

- ① 他の鳥類には出来ない、下を向いたまま海水を飲むことが可能なこと。
- ② 他のハトと異なり、足の「ふしよ」（人間の足の甲にあたる部分）に筋肉がついていて、体が逆さまになっても枝をつかみ、小枝の先の液果を食せるようになっている。
- ③ アオバトは海水飲み場として、なぜ大磯の海岸を選んだのか。その地形と地質から推測する。近隣では、米神海岸でもアオバトの飛来が確認されている。

図録のアオバトが逆さまになっているわけを知らなかった私は、提示された本が逆になっていると勘違いをした。講演のあとで、特別展の会場にて学芸員の方から解説をして頂いたが、その展示の中にこの逆さまになったアオバトの剥製標本が展示されていた。後日、「こまたん」会員による講演会がもたれた折に、この逆さま標本を演者が絶賛した事が強く記憶に残った。

いつか、アオバトの照ヶ崎海岸への飛来を見に行ってみたいと思った。

（友の会 飯島俊幸）

活動報告（よろずスタジオ）

◆「動物の歯とたべもの」

2019年9月15日（日）／博物館東側講義室／98名
（大人45人、子ども53人）／大島光春学芸員／スタッフ6名

四年ぶりに動物の歯を取り上げました。主に哺乳動物の歯と食べ物の関係を知ってもらうのが狙いです。

三連休の中日のためか博物館への来訪者が多く、駐車場は早川土手の上まで拡大され、館内はお客さんで賑やかでした。準備の整う前から、会場をのぞき込む様子は、幸先の良さを予感させました。

タイミングよくお子さん連れの若いご家族が来場され、大島学芸員の歯の形の違いと食べ方、食べ物との関係の説明を熱心に聞いた後、クイズと真剣に取り組んでくださいました。



大島学芸員の説明を熱心に聞く

親御さんがお子さんを上手にリードする姿が見られ、暖かい気持ちになりました。食べ物や動物を印刷したシールを貼って答えにするのも、小さい人には興味の湧く作業のようでした。

これまでの“よろずスタジオ”では説明を十分聞かずにワークに取り組む親子も多く、興味を深めることなく退室されて残念に思っていました。今回のご家族は、揃って熱心で、「歯と食べ方、食べ物の関係」を理解された様に見受けました。大島学芸員も乗って丁寧に説明を繰り返してくださり、相乗効果を生んだのではないのでしょうか。スタッフには嬉しい光景でした。

特大サイズのインドサイの頭骨、シマウマの頭骨、イノシシの頭骨の他、歯だけの模型が並べられました。特にインドサイの頭骨の標本は、来場者に本物の威力を発揮して、存在感があり、博物館ならではの光景となりました。多くの方が「ひや〜、すごい」とか「本物なんだ〜」とか一様に驚きの反応をしておられました。

40組用意したクイズ用紙と回答シールが底をつき、慌てて追加せねばならないのも、嬉しい誤算でした。（友の会：赤堀）



クイズ用紙を完成させる

◆「巻き貝の中はどうなっているの？」

2019年10月20日（日）/1階東側講義室/52名（大人31名、子ども21名）/担当：佐藤武宏学芸員、スタッフ7名

○ 巻き貝の中はぐるぐるとまわっているんだろうな・・・とは思っても、見ることは難しい。ここでは先生のお話と巻き貝を薄く切断したのを見ながらいろいろな巻き貝の中の様子を予想しま



した。その後は貝の切断面のこすり出し絵を楽しみました。「貝」のつく漢字集めもしました。（友の会 佐々木）

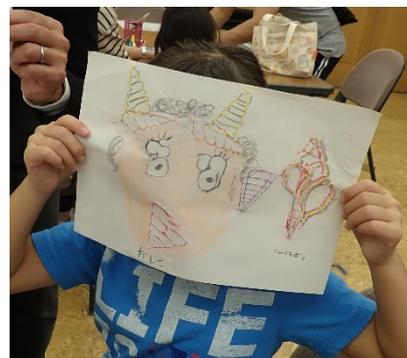
○ ふだんはそれほどしっかりと見ることはなかった貝の形の微妙な美しさに、またその断面の精巧さに驚いた。家族連れ、特に若い親子連れが多いのが「よろず」の特徴だと思っているが、若い大人たちが熱心に取り組んでいるのがひとときわ目についた。今回の「貝のつく漢字を思い出してみよう！」という提案も大人を巻き込んで頭をひねる問題だったので良かったと思う。（スタッフ日置）

○ 子どもの発想に驚かされました。頭の固くなった大人にはとても真似のできない巻き貝の断面のこすり出し絵ができました。みんなに褒められて喜ぶ姿を見ると、こういうよろずの企画を提供できてうれしかったです。（スタッフ山田）



いろいろな巻貝の断面

○ いつも楽しく過ごしていますが、子供さんたちの発想はすごく、いろいろな貝を使って、魚や鬼などを形どっていたのにはびっくりしました。（スタッフ金子）



鬼の面をつくったよ

（スタッフ金子）

活動報告（植物グループ）

10月4日に予定していました植物観察会「岩戸山の秋を楽しむ」は荒天のため中止となりました。ご応募いただいた方々、ありがとうございました。来年度も10月5日（月）に岩戸山の観察会を計画していますのでご参加ください。

（植物グループ・岩戸山担当）

行事案内

◆“よろずスタジオ”

対象：子ども（当日の来館者）
申込み：不要／オープン
参加費：無料
場所：博物館1階講義室（東側）

「砂と遊ぼう！」

日時：2020年1月19日（日） 13：00～15：00
砂は、どんな色やかたちをしているかな？
どんな性質があるのかな？
砂を使って遊びながら考えてみましょう。

「昆虫の体を見てみよう！」

日時：2月16日（日） 13：00～15：00
昆虫の小さな体には生きるための「くふう」がたくさんあります。
クイズやパズルをときながら、昆虫のからだを調べてみましょう。

◆「地話懇話会 ～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～」…第4水曜日／開催月【2020年1月度の話題】

日時：2020年1月22日（水） 15：00～16：30
（質疑応答時間を含む）
場所：博物館 西側講義室
対象：友の会々員（原則）の当日来館者
参加費：無料（原則）…但し内容により有料
（保険代、資料代等）

話題：

『南九州のカルデラ地域における爆発的噴火
～大規模火砕流噴火と広域テフラ～』
大学院生時代に取り組まれたテーマについて、

博士論文の内容を中心に紹介予定です。

話題提供者：西澤文勝氏（当館学芸員）

申込み：不要

*状況により話題（講座内容）等の変更が有ります。

連絡先（代行）：入江和夫

◆ 植物観察会『冬の植物の姿』

横浜の貴重な緑地「新治市民の森」で、植物がどのように冬を過ごしているか、樹木を中心に観察しませんか。

ここでは樹木の枝や冬芽が手近にみられます。植物グループメンバーとともに冬の雑木林を楽しみましょう。

日時：1月28日（火）9：30～15：00

雨天中止

場所：横浜市緑区 新治市民の森
集合：JR 横浜線十日市場駅改札口出た所 9：30
解散：同駅 15：00頃
講師：植物グループ

対象：大人25名（応募者多数の場合抽選）

参加費：300円／人（保険・資料等）

締切り：2020年1月11日（土）必着

連絡先：金子

*詳細は返信はがきにてお知らせします。



私は誰？ 会いに来てね！

◆ 地図を楽しもう！

フィールドに出て地図が読めればもっといろいろなことがわかるのに、という思いはありませんか？講座では地図に載っている様々な情報を知り、これを活用するためのコツを学びます。地図が少しでも理解でき身近なものになれば、情報満載の地図を持つてのフィールドは知的楽しさ倍増です。読図の方法を学び、地図をもって歩いてみませんか。

日時：2月9日（日）10：00～15：30

場所：博物館実習実験室・博物館周辺の屋外

講師：新井田 秀一 当館学芸員

対 象：おとなの方(小学高学年以上同伴も可)
定 員：20名(定員を超えた場合は抽選)
参加費：会員400円(地形図代・資料代・保険料など)非会員600円(同)
持ち物：筆記具、色鉛筆、昼食、申し込みはがき、
お持ちの方はコンパス(方位磁石)
注意事項：午後は屋外に出ますので、歩きやすい服装と防寒への対応をお願いいたします。
締切り：1月24日(金)必着
問合せ：関口

◆ 第137回サロン・ド・小田原

日 時：2月23日(日)14:00~16:20 の予定
場 所：生命の星・地球博物館1階講義室
話題提供者：西澤文勝氏(当館学芸員)
対 象：大人(事前申込み不要)
参加費：無料
問合せ：博物館 TEL 0465-21-1515
(担当：樽、渡辺)

内容については、仮題「テフラ(火山灰)と友だちになろう」とし、1ヶ月前になりましたら博物館のホームページから、サロン・ド・小田原の紹介を開いてご覧ください。

西澤文勝氏は、火山に関する新人学芸員で、サロン・ド・小田原のデビュー講演になります。ので、乞うご期待です。

◆ ミューズフェスタ2020友の会コーナー

日 時：3月14日(土)、15日(日)
両日ともに10:00~15:00の予定
場 所：博物館2階ライブラリー前ひろば
友の会コーナーの場所は昨年からの場所になりました。今年も情報展示コーナーを使った友の会活動の紹介やお子様向けワークショップを行ないます。



昨年度の会場風景

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください(講座によっては可)。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名/開催日/参加者全員の氏名・年齢(学年)/会員番号/代表者の住所/電話番号(忘れずに!)/指定事項

注意!

- 参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。
- オープンの行事は会員以外の方も参加できます(参加費が会員とは異なる場合があります)。
- 小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。
- チラシが発行されない行事もありますので、直接く連絡先へお問い合わせください。
- 持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

—広報部より—

2018年度より通信の編集作業は外注から広報担当者が行うこととなりました。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをしていただくと非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いいたします!

次号は、2020年3月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.23、No.3、通巻106号2019.12.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
Twitter：@kpmtomo